

地域の学習支援と国際教室との連携

池内 梨恵（横浜市立鶴見小学校）

1. 実践の場の特徴

横浜市鶴見区は、外国につながる児童生徒の数が多いため、国際教室が設置されている小学校は鶴見区内の全小学校となる23校、中学校は10校中6校と横浜市の中でも特に多く設置されている地域である。外国からの編入児童も増えているが、日本生まれで日本語指導が必要な児童生徒も多く、児童生徒の実態は様々である。児童生徒は、学校では在籍級はもちろん、国際教室や日本語教室で教科や日本語の学習をしている。また、放課後や休日には鶴見国際交流ラウンジの学習教室へ通って学習している児童生徒も多くいる。鶴見区内の国際教室担当者は小学校が45名、中学校が13名である。国際教室担当者の中には、初めて国際教室を担当することになった教員もおり、外国につながる児童生徒への支援について研修等を通して学びながら支援指導を行っている。複数年経験のある教員であっても、まだまだ学ぶ必要を感じながら日々実践に取り組んでいる。地域の学習支援者は、教員経験者もいるが、退職後に子どもたちのために何かしたいと、初めて子どもたちと学習するという方も少なくない。また、最近は高校生や大学生の学生ボランティアも増えてきている。

2. 実践の目標

多くの児童生徒が、鶴見区国際交流ラウンジの学習教室へ通っている。しかし、同じ子どもたちを見ているにも関わらず、学校の教員と地域の学習支援者が話をする機会はほとんどない。国際教室担当者は、子どもたちが地域でどのような学習をしているのか、どのような支援を受けることができるのかについて十分理解できていない。地域の支援者は、学校でどのような学習をしているのか、どのような課題を抱えているのかということについて直接教員から話を聞く機会は少ない。訪問を通して両者の話を聞くと、互いに話を聞きたいという思いをもっていることがわかった。そこで、鶴見区の国際教室担当と地域の学習支援者で、情報共有する場をもつことで、その良さに気づき、今後の子どもたちへのより良い支援に繋がれるようにしたい。顔を合わせることで、子どもたちの支援のために相談できる身近な存在の一人と捉え、今後の継続的な情報共有をする関係の構築を目指したい。

3. 具体的な実践の内容とその過程

まず、9月7日に鶴見国際交流ラウンジの学習支援者を対象とした研修会を鶴見国際交流ラウンジで実施し、参加者は15名だった。数年学習教室で活動をしている方、教員経験者、大学生と様々な立場の方が参加した。「外国につながる子どもたちの実態」「横浜市の外国につながる子どもへの支援」「学習アイデア」について、教員の立場から見えていること、感じていることを伝えた。研修の中では、子どもたちへの支援についてグループで話し合う時間を取り、互いに考えていることを共有することもできた。「横浜市の取り組みがよく分かった」「支援している子どもたちが学校でどのように学んでいるのかが分かった」「学校現場の先生の経験や考えが聞け

てよかった」「今後の支援に活かしたい」という感想があった。また、学校の教員と話したいという思いがあることを改めて感じた。

次に10月28日に、鶴見区内の国際教室担当者と地域の学習支援者を対象とした「公開授業・情報共有会」を実施した。国際教室担当は21名、地域の学習支援者は10名の参加だった。鶴見小学校内鶴見ひまわり教室で公開授業、情報共有会を行った。地域の学習支援者は、9月に実施した鶴見ラウンジでの研修会に参加した方々が参加していた。公開授業では、学習支援者と関わりのある児童2名を含む3名の児童の学習する様子を公開した。その後の情報共有会では、「授業において、効果的だった支援」「支援している子どもについての課題共有・課題解決」をテーマに話し合った。国際教室担当も地域の学習支援者も、互いの話を聞くことで、同じ悩みをもっていたこと、支援の工夫の共有ができたこと等がわかった。これまでの研修会は、地域学習支援者だけの研修、国際教室担当者だけの研修と、それぞれが研修を受けていたが、共に同じ研修会で話し合うことで、指導や支援について互いに参考になることが多くあり、今後も連携していきたいという声が多く上がった。

4. 結果と考察

情報共有会で話し合った結果、「同じ悩みや想いを抱いていることを知って、一人ではないと喜びを感じた」「場所や立場の違う指導者同志が力を合わせて子どもたちの成長を見守っていくことの大切さに気付いた」という声があった。他にも互いに初めて知ったことがあったり、同じ子どもを見ているということで話題が尽きない様子も見られたりした。学校の教員も学習支援者も、「鶴見区皆で子どもを支えている」ということを実感し、より良い支援のために、顔が見える関係、繋がりを大切にしたいという思いをもてたことはこの実践を通じて得られた効果だと言える。顔を合わせて話す機会や共に研修会で学ぶ機会をもてるようにしていくことが、全て子どもたちのために繋がるのである。支援の工夫について共有することで、子どもたちへより良い支援を行うことができる。また学校での課題を地域が知ることで、支援の仕方にも活かすことができる。地域での子どもの姿を知ることで学校では見えない子どもの良さを知ることもあり、それを学校での支援に活かすこともできると考える。

これらのことから、今後も子どもを通して見える繋がりを大事にしたいと考えている。来年度も情報共有会を開き、各校の国際教室担当者と学習支援者とが顔を合わせる機会を作り、繋がりを作る一つの役目を担いたい。また、話し合いの中で見えてきた共通の新たな課題にも、協力して取り組んでいきたい。